

最近はどこでも言われていることであるが、私も英語での会話力は非常に重要であると考えている。人とのコミュニケーションの数が増えれば、自分の視野は飛躍的に広がるであろうし、コミュニケーションの相手をより広げるためには、英語での会話力が不可欠となる。こうした英会話に関して、人はそれが苦痛だと感じると、より英会話を必要としない生活に移ろうとするが、人よりも英会話が得意だと感じれば、積極的にその能力を活かそうとする。自分の視野をより広げるためには、早い段階で、英語へのコンプレックスを取り除くことが重要であろうし、大学教員はそのために積極的に、英語を話さざるを得ない環境を作る必要があると感じている。

そうした価値観から、うちの研究室では、研究室セミナーやグループディスカッションは英語にて行っている。最初の数年では、学生は時々日本語を使用していたものの、最近

では全てのディスカッションを英語にて行っている。こうした活動が功を奏したのか、うちの学生は、英語にて学会発表することに対して抵抗感が少なくなっている。海外研究グループに短期間（3ヶ月）留学することを希望する学生も複数人現れており、この1年間だけでもうちの研究室から、5人の学生が海外留学する予定となっている。

こうして言語を英語に変えることに対しては、様々な意見があるであろう。学生本人の理解度に一番の重点を置くならば、言語は日本語である方が良いと思われるし、そうになると、授業での言語については、日本語の方が良いのかも知れない。しかしながら、各学生の研究に関しては、研究室にて何度も繰り返し議論を行うであろうから、その半分の議論を英語に変えたとしても、学生の理解力は、それほど低下はしないであろう。うちの学生には英語導入は明らかに良い効果を生み出ししており、うち研究室では、英語を共通言語とした教育をさらに深めてゆきたいと思っている。

2行オーバー